

# 六花

新潟大学の魅力と現在を発信 いま

新潟大学季刊広報誌 [RIKKA]

2022.WINTER



NIIGATA UNIVERSITY  
MAGAZINE

No. **39**

## 授業紹介 - 教育の現場 -

学生の活動&サークル紹介 Enjoy! 学生ライフ

注目される研究報告

活躍する卒業生紹介 “学びの先”

卒業生・教員によるコラム

基金関係のお知らせ

Campus Information

特集  
博  
士  
人  
材  
を  
支  
え、  
育  
て  
て  
る



真の強さを学ぶ。

新潟大学

NIIGATA UNIVERSITY



Cover Photo

雪が降りしきる1月の午後。五十嵐キャンパス正門の階段からキャンパス中央道路方向を臨む。

2022.WINTER No.39

# CONTENTS

- 03 特集 **博士人材を支え、育てる**
- 08 **授業紹介** -教育の現場-
- 09 学生の活動&サークル紹介 Enjoy! **学生ライフ**
- 10 **注目される研究報告**
- 12 **活躍する卒業生紹介 “学びの先”**
- 13 **卒業生・教員によるコラム**
- 14 **基金関係のお知らせ**
- 16 **Campus Information**

# 特集 博士人材を支え、育てる



日本では近年、大学院博士課程に進学する学生が減少傾向にある。進学後の経済的な不安と、修了後のキャリアパスが見通せないことが主な要因と考えられている。将来の研究開発やイノベーション創出の原動力となる人材を支え育てていくため、新潟大学が取り組み始めた新たな支援の動きを追った。

## 博士学生を 取り巻く 国内の現状

新潟大学に限らず、国内の大学では博士課程に進学する学生の減少傾向が続いている。優れた研究力と高度な専門性、豊かな発想で社会に変革をもたらす博士人材は、地球温暖化や自然災害、少子高齢化、SDGs、DXなどにおいて、現代社会が抱える複雑な課題の解決に不可欠だ。一方で、現役学生に聞くと「博士課程まで進むと社会に出るのが遅くなり、就職などへの不安がある」という声も多いようだ。博士人材が社会で活躍できるよう、彼らに対し、大学のキャリアパス支援の充実、企業の理解・積極的採用など、周囲の環境改善が急がれている。新潟大学における博士課程を取り巻く現状と取組について、牛木辰男学長に聞いた。

イメージはどのようなものでしょうか？ おそらく理系学生なら学部で4年間学び、その後、大学院で2年の修士課程を終えて社会に出る、というものではないでしょうか。卒業後の社会での活躍や就職を有利にするには修士で十分だと思われるように感じます。日本社会では「学びの本当のゴールは博士」という意識が非常に低いように思います。

日本における大学の概念や制度は明治期にヨーロッパから導入された。当時は大学に行くこと自体がエリートの特権であり、その中でも博士課程は専門の研究だけに留まらず、本格的な社会的エリート育てる場であった。

「欧米で博士の学位を持つ人物の活躍の場は研究分野に限られません。企業のトップの肩書にも『博士』PhD」と書かれている人が多くいます。博士は、一つの専門だけでなく、それを中心にした幅広い教養を持つ人物として理解され



新潟大学 牛木辰男 学長

ています。博士とは社会的な地位を保証され、信頼される存在のこと。「企業のトップに立つ人の条件」や「教養を持ったエリート」として位置づけられているのです。それが日本社会では決定的に欠けている。「博士」研究者」という限定的なイメージは、日本独特のものなのです。

このような背景には、日本企業が持つ制度や仕組みの中で「博士」幅広い知識やビジョンを持つ人材」という側面が理解さ

### 『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。



題字  
野中浩俊(のなか ひろとし)氏  
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)。専門は、書道、富岡鉄斎研究。現在は、岐阜女子大学 教授

新潟大学SNS公式アカウント

- @niigata.univ
- @Niigata\_Univ\_O
- @niigata\_university

	新潟大学フェローシップ支援事業 (科学技術イノベーション創出に向けた大学 フェローシップ創設事業)	未来のライフ・イノベーションを創出する フロントランナー育成プロジェクト (次世代研究者挑戦的研究プログラム)
目的	学生の革新性や国際性を高め、 産官学の幅広い分野で活躍できる博士人材を育成する	学生の挑戦的・融合的な研究を推進し、多様な分野で イノベーションを創出できる博士人材を育成する
対象分野	<b>未来健康科学</b> 高度医療による健康未来福祉社会 <b>革新的情報・AI</b> データ駆動型超スマート社会	<b>全分野</b>
研究支援	当該分野の専門性の強化 英語論文作成支援 / 実践的データ分析講習等	異分野融合研究の推進 マルチラボシステム (学内短期留学制度)
特筆すべき 支援内容	アカデミア、産業界へのキャリア形成プログラム →産業界への理解を深め、ジェネリックスキル <sup>★</sup> を獲得	メンター制による協働研究支援 →研究への理解を深め、アカデミックスキル <sup>★</sup> を獲得
具体的な 採用事例	現代社会文化研究科 (健康科学) 健康経営 マネジメントカ 自然科学研究科 (フィールド科学) 統計スキル 気象学 企画・運営力 医学総合研究科 (医学) 皮膚科学 分析力 リーダーシップ	現代社会文化研究科 (法学) 環境法 工学系 法務 省エネルギー 自然科学研究科 (フィールド科学) 気象学 農業土木 砂防ダム 医学総合研究科 (医学) 生活 人工知能 ビッグデータ
支援の 体制や内容	ポイント! PhDリクルート室 企業視点の自己PRの 方法・視点を獲得! 特長 独自のキャリア支援 産業界を中心とする社会の様々な場で 活躍するため、研究力向上とキャリア 支援のプログラムへの参加が必須 ▶キャリア支援プログラムへの参加時期 支援期間内に各自で設定	ポイント! PhDリサーチサポート室 自身の専門分野から異分野 への応用視点を獲得! 特長 マルチラボシステム 分野横断、融合、挑戦的研究を促進 するため新規ラボでの研究を推奨* *既に共同研究実施中のラボも可。 適切なラボがない場合は学外も可。 ▶学内留学先での研究従事期間 各学年で基本3か月以上



末吉 邦 理事(研究・大学院 担当)・副学長

新潟大学における博士課程の学生支援を新たに進めているのは、昨年度、新設されたPhDリクルート室だ。キャリア相談や講義セミナー、企業とのマッチング、企業訪問を通して博士学生のキャリア開発を進めている。プログラムは社会との接点を強く意識させることを念頭に置いている。「メンターによる研究環境支援、各種セミナーによるト

## 最先端の研究を遂行する能力は 社会の様々な場面で 応用可能である

ランスフアラブルスキルの育成、企業とのマッチングなどを通してキャリアパス多様化支援を行うことで、博士学生が研究力とともに社会人スキルを養い、自らの知識や技術に対する社会のニーズのありかにつなげることができると末吉邦理事(研究・大学院担当)は話す。また、PhDリクルート室の取組は、企業側が博士学生に求める人材像を明らかにするものでもある。

「企業は博士人材が持つ、研究を通して身に付けた俯瞰力やチャレンジ精神、課題解決能力に期待しているようです。一つの研究を完成させ発表するという一連の作業には、高いレベルの知識と専門性が必要です。それだけでなく、同時に周囲とのコミュニケーション能力を持ち合わせていることが重要なのです。またPhDリクルート室が開催するセミナーには、一般社会で活躍している先輩ドクターも参加してくれます。現役の博士学生が彼らの経験やマインドに触れることができる点も有効です」

令和3年度、新潟大学における博士人材の支援策はさらに強化された。その柱の一つが、文部科学省の「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」に採択された「新潟大学(後期)課程の学生が

学生を選抜し、経済的支援(180万円)と研究費(40万円)の支援を行うとともに、様々なキャリアパス支援に向けた取組を行う。

「本プロジェクトでは、既存の枠組みにとらわれない挑戦的・融合的な研究に取り組むことができ、また多様な分野でイノベーションを創出できる次世代の博士人材を育成します。新潟大学フェローシップと同様に、学位取得後には期間中に培った能力を生かして産業界を中心に広



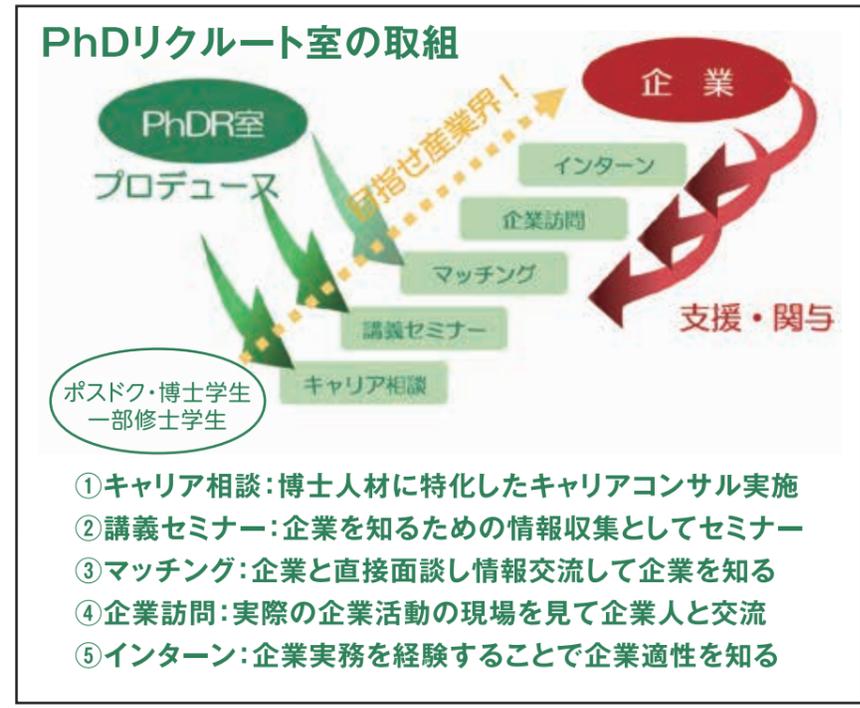
## グローバル社会において 博士人材の活躍は 企業間の交渉を左右する



く社会で活躍することが期待されます」

これら二つの事業とPhDリクルート室の取組を通して育てられる人材像はどのようなものなのか。「最先端の研究を遂行する能力は、社会の様々な場面で応用可能」と末吉理事は続ける。

「博士学生には産業界や自治体などの組織で、自身の研究活動で培った能力を発揮してほしいと思います。研究の醍醐味は、自ら問いをたて、試行錯誤しな



研究に専念できるよう、研究専念支援金(180万円※生活費相当額)と研究費(20万円)からなる3年間の経済的支援と、キャリア形成支援を全学的な戦略下で実施するものである。

「本事業では、産学官の広い分野でイノベーションを起こし、グローバルに活躍できる博士人材を育成するべく、アカデミア・産業界双方を見据えた多様な

キャリアパスが選択できる育成プログラムも提供しています」

もう一本の柱は、「未来のライフ・イノベーションを創出するフロントランナー育成プロジェクト」だ。こちらは科学技術振興機構(JST)が公募した「次世代研究者挑戦的研究プログラム」の採択を受け、令和3年度後半からスタートした。博士(後期)課程の全研究科を対象に優秀な

※汎用的で且つ社会のどこにおいても必要とされる応用・転用可能なスキル



# Enjoy! 学生ライフ

新潟大学の学生は、勉学のみならずサークル活動をはじめ様々な分野で活躍しています。このコーナーでは、そんな青春の1ページをお届けします!

## CAMPUS TOPICS

### 学生が関西独立リーグの06BULLSからドラフト1巡目に指名されました

関西独立リーグ(プロ野球独立リーグ)で11月13日に開催された「2021年度関西独立リーグドラフト会議」において、関西独立リーグ球団の06BULLS(ゼロロクブルズ)から、ドラフト第1巡目選択希望選手として、今村友星さん(教育学部4年・硬式野球部所属)が指名されました。今村さんは、同日に開催された「さわかみ関西独立リーグ2022年シーズンリーグ合同トライアウト」に参加し、実技審査の結果、06BULLSから投手として高い評価を得て第1巡目で指名されたもので、本学卒業後はプロ野球選手として独立リーグで鍛錬し、NPB(日本野球機構)の球団入りを目指す予定です。



### 「ICTビジネスアイデアコンテスト2021 in 長岡」でグランプリを受賞しました

長岡市のアオーレ長岡で11月23日に開催されたICTビジネスアイデアコンテスト2021 in 長岡(『えちご想発xTECH』)の最終審査発表会において、本学工学部から参加した4チーム全てが、最優秀のグランプリ(総務省信越総合通信局長賞)を筆頭に、優秀賞、奨励賞を受賞しました。グランプリを獲得した五十嵐太一さん(工学部2年)の作品は『利用規約データ分析』というもので、つい読み落としてしまいそうなアプリケーションなどの利用規約を、自然言語処理を用いて重要なところを自動的にハイライト表示して見落としの少ないようにしてくれるアプリケーションの提案で、着目点の良さや具体的なデータ分析方法の提案が高く評価されました。



## CIRCLE PICK UP!

### 交通安全サポーター NUTS 県警や地域と繋がり活発に活動

部員は、警察官を目指す学生や、家族や親族を交通事故で亡くし悲惨な事故を無くしたいという強い思いを持つ学生など32名。新潟県警察と共に、毎月10日(点灯の日)には大学前で、11月10日(いい点灯の日)には新潟市内の保育園や県立出雲崎高校と「おもいやりライト運動(ドライバーへの早めのヘッドライト点灯の呼びかけ)」を行う。「交通安全をテーマに県警や地域の方々と繋がりが持てます。同世代だけではなく、幅広い職種・年代の方々と関わる機会が多く、その経験から社会に出る前に一人の大人としての立ち振る舞いや言葉遣い(行動や言動)も培うことができます」

楽しく、明るく  
責任感を持って  
取り組んでいます



代表 坂口雄介さん  
(大学院現代社会文化研究科2年)  
→県内の様々な場所で交通安全イベントを企画・運営。2019年度の全国交通安全大会(TRY-LIGHT LIVE、おもいやりライト運動事務局主催)で、ベストサステイナブル賞と参加人数第1位を受賞した



### 河内 泉 准教授

Izumi Kawachi

Profile 博士(医学)。専門は神経内科学、神経病理学、医学教育学。多発性硬化症などの神経疾患に関する研究にまい進する一方、2019年より医学教育センター専任教員として医学生教育充実に尽力している。



## 臨床実習入門

4年間で修得した知識・技能・態度を総括。シミュレーター活用・医学教育DXを志向した

次世代教育への転換を模索。学生を試験合格に導き、チュードレント・ドクターとして医療現場へ送り出す

Student Doctor の認証を得た医学生が参加する診療参加型臨床実習。患者の診療にあたる医療チームの一員として、指導者のもと現場で医療を学ぶ実習は、医師を志す学生にとって貴重な経験になるとともに、医学教育カリキュラムにおいて

も重要な期間として位置付けられている。医学科医学教育センターの河内准教授に聞いた。「学生が臨床実習に参加するには、実習を行うに足る知識・技能・態度が備わっているかを評価する全国共通の試験(共用試験)の合



意欲ある学生が伸び伸びと勉学に勤しむ

# 授業紹介

—教育の現場—

専門的な知識や技術の修得と、均整の取れた知識の獲得は教育の重要な役割。約5,000科目の中から特色ある授業を紹介。

## 医学部医学科



共用試験に合格した学生に白衣を授与する白衣式は学生たちが決意を新たにする機会でもある

格が必要です。4年次の臨床実習入門の授業では、共用試験の合格を目指し、学修してきた医学知識を確かなものにするのももちろん、シミュレーターを使った採血や縫合、模擬患者への診察などを通じて、必要な技能や態度を修得します。コロナ禍に伴い非対面講義を導入するなど、学びの場もニューノーマルな時代に突入。河内准教授は「学修の質が上がった」と、現在の授業形態のメリットを語る。「オンライン形式の座学では、学生が講義内容を見直しながら効果的に復習できるようにになりました。また、対面実習も少人数ごとに分

## STUDENTS VOICE



(左から) 篠原陽介さん・北村龍太さん・神成朝日さん (医学部医学科4年)

「YouTubeを活用した授業や医療面接の指導など、先生方があらゆる面で親身になってバックアップしてください(篠原)」「白衣式を終えて一層身が引き締まりました。臨床実習では、より自発的に行動していきたいです(北村)」「経験豊富な先生方ばかり。講義や話を聴くことで自分が学びたい事、将来のキャリアをイメージできます(神成)」

散すること、個々の理解力や吸収力が向上したと思います。本年度の4年生は晴れて全員が共用試験に合格。ここから約1年半、病院などの臨床実習に参加する。今後、学生たちにはどのようなことを期待するのか。「本学は学生が卒業までに身に付けておくべき能力として8つの『1コンピテン』と40の『2コンピテン』を掲げており、知識や技能のみならず、コミュニケーション力や国際感覚、周囲へのリスペクトといった能力も医師を志す上で重要であると考えられています。多様な医療現場を経験していく中で医師として社会貢献をする見識と、将来は患者の病気を癒すだけでなく、家族や仕事などにも含めた『ホールドバック』を実践できるように、これからも精進してまいります」

※1:医学部医学科を卒業までに獲得すべき能力。単なる知識・技能だけでなく、技能・態度を含み、医療における複雑な課題に対応する能力。 ※2:Care&Healを目指し、行う全人的医療。

病気と闘う子どもと、その家族と一緒にいられますように。

2022年開設予定

—小児医療宿泊施設— **ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた**

募金にご協力お願いいたします。

詳細は

お問い合わせ: サポーター連携推進室 TEL: 025-262-6010 E-mail: kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

## ときめく「知」の交流

地域社会への知的貢献を行う拠点として、「新潟大学駅南キャンパスときめい」とが設置されています。

新潟駅直結のPLAKA1に位置する抜群の利便性のほか、約610m<sup>2</sup>(185坪)の広さに、大小の会議室、展示イベント等に使用できる多目的スペースを提供しています。それぞれの会議室には大型スクリーン、プロジェクター等のAV機器が用意され、講義のほか、講演会やセミナーにも最適です。どうぞお気軽にご利用下さい。

お問い合わせ・お申し込みは **新潟大学駅南キャンパスときめい** 〒950-0911 新潟県新潟市中央区笹口1丁目1番地 プラカ1 2階  
Tel:025-248-8141 Fax: 025-248-8144 E-mail: tokimate@adm.niigata-u.ac.jp

研究課題

## 次世代ICTに関する研究 -5G、IoT、その先へ-

### 社会を変える力を持つ情報通信技術 その進歩を支える理論研究



工学部  
佐々木重信 教授

Profile | 博士(工学)。専門は情報通信工学。精度の高い通信、端末の電源を維持するための無線技術について研究している。

ICT(情報通信技術)は私たちの生活に身近なものとなった。例えばスマートフォンには携帯電話としての機能だけでなく、Wi-Fiと呼ばれる無線LANをはじめとした様々な無線通信機能が搭載されている。メールや画像、動画、ウェブ、多種多様なアプリケーションが扱え、このような用途において、無線通信は高速化と大容量化を目指すのが一つのトレンドである。

「移动通信の分野では5Gのサービスがスタートし、超高速での大容量データ通信が可能になっていきます。各端末からの発信力が飛躍的に上がることで、相互通信の性能が向上したり、離れてい

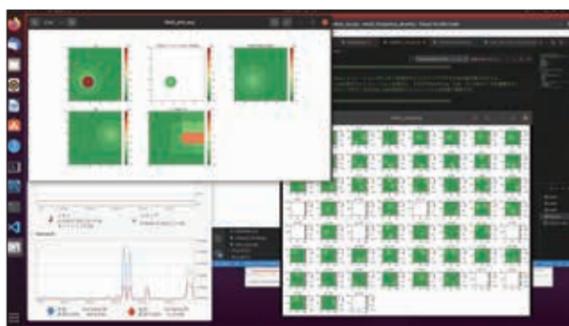
ても高精度の機械操作が可能になります。後者は遠隔医療などへの応用が期待されています」

一方、最近注目されているIoT(モノのインターネット)では、センサを取り付けた端末から様々な情報が吸い上げられ、そのデータをもとに新たなサービスが生み出されることが予想される。

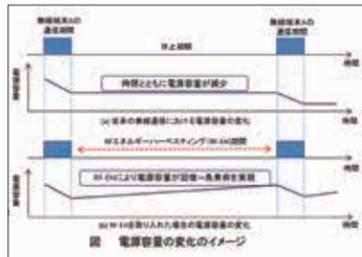
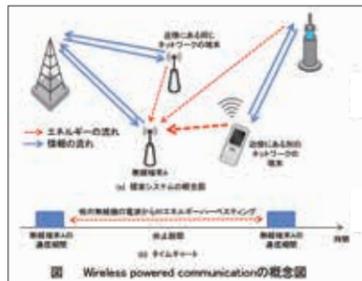
「今後IoTの普及と共に、無数に存在する情報端末を数年単位で維持しながら、通信の信頼性をどのように確保するかという新たな課題も生じています」

佐々木重信教授は、このような課題を解決するためのワイドバンド(広帯域)無線通信システムの研究に取り組んでいる。並列組合せスペクトル拡散方式の理論研究、UWB(ウルトラワイドバンド)無線通信技術の基礎研究など、IoT向け通信技術の先駆けとなる研究に取り組むと共に、UWB利用の国際的ガイドラインの作成や広域無線通信ネットワークの国際標準化にも貢献している。

「信頼性の高い情報伝送を実現する技術の研究と同時に、今使われている無線周波数の有効活用、通信における



エネルギー消費に着目した持続可能な無線通信システムの創造も研究室の大きなテーマです。データを送る際の約束事ともいえる情報通信技術の進歩は新たなデータ社会を作る鍵であり、私たちの生活スタイルを変える絶大な力があります。特に5Gについては社会に展開していく上で、使う側となる様々な分野の人々もつアイデアが重要になります。私たちは最先端の研究を通して得た専門的な知見と技術からそれを支える役割があると思っています。通信技術の進歩は確実に社会の姿を変えていくのです」



↑周辺の無線端末の電波からエネルギーを獲得し、無線センサネットワークの長期運用を狙った「Wireless Poweredセンサネットワーク」のイメージ

↑無線周波数有効利用のための周波数利用データベースの研究

研究課題

## ナショナリズムと憲法学

### 他者理解のためのナショナリズムが 現実に根差した憲法理解を進める

憲法と私たちの日常生活の関係は直接的に見えにくい。そのため、専門家と一般の間には憲法理解のギャップが生じる。栗田佳泰准教授はこの隔たりの解決にはナショナリズムの理解が重要だと話す。

「憲法は、基本的人権や国の統治機構を定めるだけでなく、『人は一人ひとりお互いに尊重し合うべきだ』という基本的な人としての在り方を掲げていると考えています。一方、ナショナリズムという言葉には、『外国人排斥』などの文脈で使う場合、ネガティブなイメージがありますが、本来は国民が協力し平和に共存するために必要な旗印のような意味も

あります。また、ナショナリズムは他者との違いを理解するためのものでもあります。憲法を理解するには、ナショナリズムの理解が一つの手がかりになります。私はリベリズム哲学から憲法を捉え、ナショナリズムとの関係性について考察しています」

栗田准教授によれば、日本におけるナショナリズムは江戸末期～明治期に極めて意図的に作られた。そのレガシーは昭和の敗戦を経て「清算された」ように見えるが、連綿と受け継がれている。そのため、戦後制定された日本国憲法を普遍的な感覚で理解する際に混乱が生じると説明する。

また、栗田准教授は日本人とは何かを直視することで、現実に根差した憲法理解が進むと続ける。

「『国民性』や『日本人としてのアイデンティティ』を問われてピンとこなくても、もっと身近でミニマムな単位、例えば『○○地域の地元愛』や『○○市民あるいは県民らしさ』であれば答えやすくなるかもしれません。身近な結びつきである郷土への理解が深まれば、重層的ア



法学部  
栗田佳泰 准教授

Profile | 修士(法学)。九州大学大学院法学部博士後期課程単位取得満期退学。専門は憲法学、法哲学や政治哲学の考え方を参照しながら研究している。



↑栗田准教授の単著「左のナショナリズムと憲法学」(田上穂治賞本賞受賞2020年)と分担執筆した共著

新潟大学の特色ある研究トピックを紹介  
注目される  
研究報告  
新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探究や社会の発展に貢献する研究を行っています。

イデンティティを持つ日本人であることに意識的になれる。それが分かってこそ私たちは、アイヌや沖縄の人々、在日外国人といったマイノリティとともに、健全な日本社会を形成・維持することができ、広い観念で憲法を理解できるのではないかと考えます」

私たちの暮らしに密接に関わっている憲法。郷土への想いが起点となり憲法の理解につながるという栗田准教授の話を読み、憲法がこれまでよりも身近なものに感じてきた。



↑新渡市内の中学校で行われた新渡市主催「憲法のつどい」では法学部生による「公開模擬国会」実施に協力

新渡大学キャンパスライフ支援センターキャリア・就職支援オフィス

### CAN システム

卒業生と新潟大学生をつなぐ、キャリア形成サポートの新しいカタチ！  
卒業生と学生をつなぐ CAN システム

CAN システムとは Web 上のシステムを介して、学生の就職活動やキャリア形成をサポートしていただくシステムです。社会の先輩として学生たちの悩みや不安にアドバイスをお聞かせください！

卒業生の皆様のご登録をお待ちしています！

お問い合わせ先 新潟大学キャンパスライフ支援センターキャリア・就職支援オフィス TEL:025-262-6087 FAX:025-262-7579 E-mail:shushoku@adm.niigata-u.ac.jp

企業の技術向上を目指す産学官交流ネットワーク

### 新潟大学産学連携協力会

新潟大学地域創生推進機構と産業界等が密接に連携し、産業の活性化、高度化、地域社会の発展を目的に技術の向上及び地域連携を図ります。

主な事業

- 講演会
- セミナー
- 研修会
- 技術相談
- など

お問い合わせ先 新潟大学産学連携協力会(新潟大学地域創生推進機構内) TEL 025-262-7553 FAX 025-262-7577 Email unico@ccr.niigata-u.ac.jp

# 活躍する卒業生紹介 “学びの先”

新潟大学で「真の強さ」を学び、  
社会で活躍したい10万人を超える卒業生。  
社会で活躍する卒業生をご紹介します。

## ■男鹿水族館GAO 展示課・広報課 高橋深雪さん



**Profile.**  
秋田県出身。1981年生まれ。新潟大学理学部生物学科卒業。2004年、男鹿水族館GAOに入社。展示・広報業務を担当している。

### 生き物を通して感動や環境意識を伝える



高橋さんがエサやりをしている間に、アシカの採血をする

高橋深雪さんが勤務する男鹿水族館GAOは、秋田県唯一の水族館。同県の県魚であるハタハタをはじめ、男鹿半島沿岸に生息する魚や、ホッキョクグマ、アシカなどの動物を展示・飼育している。

「飼育生物の展示と広報業務を中心に担当しています。館内の生物の写真を撮ります。生体の特徴や魅力を分かりやすくお伝えするためにSNSを駆使した情報発信にも力を入れています。」

「4年生の時、1カ月間大学を休み、北海道・登別の水族館で実習をさせていただきました。機会を得ました。今ほどインターネットやメール環境が整っていない時代。わづらったという。」

総合大学としての利点を活かして他学部の講義も履修。その中で聴講した命についての講義は、今も強く記憶に残っている。漠然とだが以前から抱いていた「卒業後は生き物に関わる仕事がしたい」という思いが次第に確固たる目標へと変わっていったという。

### 日々の観察が重要 「まったく同じ」がない仕事

国内の水族館や動物園に何通も手紙を送り、就職について問い合わせたのですが、その水族館から実習なら受け入れてくれるというお返事をいただいたことがきっかけです。感謝しているのは、水族館の方たちが住み込みができる寮の部屋まで用意して、水族館のリアルな仕事を隅々まで経験させてくれたことです。「水族館で働きたい」という気持ちが強くなり、現職を選びました」

実習を通して忘れること

**Information**  
■男鹿水族館GAO  
https://www.gao-aqua.jp/

## 未来のライフ・イノベーションの フロントランナーとなる。

新潟大学では、SDGsの達成期限でもある2030年を直近の未来と見据え、大学が果たすべきミッション（使命）を明確にし、同年における新潟大学のあるべき姿を示すため、2021年2月に「新潟大学将来ビジョン2030」を策定しました。

新潟大学 WEB サイト  
新潟大学 将来ビジョン 2030

## 今回のテーマ 「地球の子供食堂と宿題 Cafe②」

2021年5月、古町にOPENした「地球の子供食堂と宿題 Cafe」。始めてから半年ですが利用登録人数は約200名と、子供たちや保護者の皆さんの口コミでじわじわと増え続けています。

改めてこの子供食堂について簡単に説明すると、毎日（水曜日の定休日以外）16時～20時の間営業していて、食事をするだけでなく宿題やゲーム、お友達との待ち合わせなど、自由に過ごしていい空間となっています。実際に勉強をする子もいればその隣でゲームをしたり鬼ごっこしたり、漫画を読んだり絵を描いたり、本当にまあびりくりするくらい自由に過ごしています。時折、お家みたいに気が抜けてしまったり怒られていたり子もいますが、経済状況や住んでいる場所など関係なく様々な子が集まりにぎやかな場所になっています。

地球の子供食堂と宿題 Cafe を作る時に「子供を助けたらいい大人のエゴを押し付けるのではなく、子供たちが自然とまた来たくなる場所づくりをしたい」と思い、楽しいコンテンツを揃え、とにかく子供たちのためになるよう考えて作ったので、多くの子供たちに利用してもらえると聞いた甲斐がありますね。

### 新潟大学卒業生 山田彩乃の隔号連載コラム “輝く女性” 研究所

新潟大学教育学部卒業。2015 Miss Earth Japan (日本代表)。株式会社 Shitamichi HD 常務取締役。リリマリプロダクション代表。特定非営利活動法人 Lily&Marry's 代表。久千代～AYANO YAMADA～代表。(レギュラー番組) BSNラジオ「マエカブナカシカ」その他、ウォーキングレッスン講師、講演会等も行っている。

Ayano Yamada

実際にしばらく運営していると、子供たちにとっても保護者の方々にとってもいい場所になり得るのではと感じています。近所の子はほぼ毎日来る子もいて、毎日来ていると段々と自分のことを話してくれたり、思うことや考えていることを教えてくれたりして、第三者に話をする機会を作ることができているのを見て少し安心しました。

話ができ安心できる居場所は多くあってもいいと思うので、子供食堂が一人でも多くの子にとっての「居場所」になるよう今後も努めていきたいです。

また、塾や習い事の前に来る子も多く、習い事の前に食事を済ませることができるといのは保護者にとってもありがたいとの声もいただいています。飲食店を併設していることから、家族みんなで来て、子供たちは子供食堂で遊び、保護者は飲食店で一杯飲む、なんて光景も自然に見られるようになってきています。

保護者も子供も、心の余裕を少し作るだけでも家庭での関係や環境が変わっていくはずなので、とても大切な時間になっているのだと思います。

誰かと一緒に温かいごはんを食べる話をしながら遊んで学んで。なんでもできていろんな人が集まる場所だからこそ、できることがまだまだありそうなので、引き続き様々なコンテンツを増やして地域全体で子育てや教育ができる場所づくりをしていきます。

## COLUMN ◆新潟大学教員によるコラム “知見と生活のあいだ”

本学教員がそれぞれの専門領域と日常の接点を題材に、日々の生活に通じる理論やアイデアを綴るリレー式コラム。第21回は創生学部です。

**第21回 ●創生学部  
「次世代の社会参画への期待」**

あ なたは選挙に行っていますか？ 若年層の投票率の低さが話題となっていて、実は20歳代の投票率は、1969年第32回衆議院議員総選挙より各世代別投票率の中で最低を続けています。これは、小学校・中学校・高等学校では、投票の大切さや社会参画の必要性を授業のなかで取り上げており、特に2016年の参議院議員選挙から18歳選挙権が実施され、小中学校における主権者教育に対して注目が集まっています。

私の専門は、中等教育における意思決定型学習の開発です。総務省の主権者教育アドバイザーとして、高等学校などへの主権者教育の研修・講演など支援を行っています。現在1日の子供を学校の中で生活する児童・生徒は、その環境を与えられたものとして享受し、これまで自らその改善などに取り組む機会とは与えられてきませんでした。社会参画に対する意識の醸成に、児童会・生徒会活動は大変有効です。自分自身が生活する社会（学校や地域）に目を向けさせ、社会参画意識を育成する重要性が再認識されています。現在、選挙管理委員会などが中心になり、主権者教育の出前講義が小中学校で実施されています。小学校では休み時間の学年別の体育館の使い方、中学・高校では校則の見直しや部活動・学校行事などの詳細の決定など、これまで教師中心に行われてきた学校内での意思決定に対して、児童・生徒が主体的に取り組むテーマを出前講義に取り入れてい

田中一裕  
創生学部教授  
専門は意思決定型学習開発研究。現在は総務省主権者教育アドバイザーとして高等学校などでの研修・講演などを行っている。



NIGATA選挙カレッジによる高校での主権者教育模擬授業

## 特別なあなたに 特別な1枚 「新潟大学カード」

新潟大学全学同窓会では、三菱UFJニコスと提携して、ゴールドプレステージの「新潟大学カード」を発行しています。多くの特典を享受できるとともに、新潟大学の支援にもつながります。入会のお問い合わせは全学同窓会まで。

**特典** 年会費無料 海外・国内旅行傷害保険付き(最高3,000万円) 国内主要空港のラウンジが無料

入会受付中!

新潟大学カードに関するお問い合わせ先  
新潟大学全学同窓会事務局  
電話：025-262-7891  
(受付時間 平日 10:00～15:00)  
E-mail : n-doso@adm.niigata-u.ac.jp

## 新潟大学まなび応援基金

■目的 経済的理由により修学が困難な学生に対して、修学支援事業を行います。  
令和2年度からは、「輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金」「新潟大学大学院博士課程奨学金」「新潟大学修学応援特別奨学金」及び「新潟大学学業成績優秀者奨学金」の支援に加え、「新型コロナ対策緊急学生サポートパッケージ」により、修学・学生生活支援及び経済支援を行っています。

■寄附者名簿 (R3.9~R3.11寄附入金分)※(50音順 敬称略)  
〈個人〉井本 剛司 木村 聡 熊谷 敬一 児玉 伸子 佐藤 純一 鈴木 康寛 竹内 卓 建入 芳昭 田邊 進・田邊 幹子  
内藤 義隆 中平 啓子 西崎 浩 根岸 智也 笛木 隆弘 盛崎 眞治 匿名希望4名

## 新潟大学基金

■目的 新潟大学の基盤整備、企業や地域社会との連携、教育・研究活動支援、国際交流活動支援、学生のための厚生施設整備などを推進する事業を行います。

■寄附者名簿 (R3.9~R3.11寄附入金分)※(50音順 敬称略)  
〈個人〉東 伸彦 新川 恒夫 五十嵐 友子 池内 健 池亀 元喜 石原 清 岩田 喜美枝 大蔵 幹彦 大嶋 泉  
大嶋 美香 大島 喜信 大桃 祐介 岡村 光展 小川 宏 長部 茂幸 勝井 丈美 加藤 公則 加藤 直樹  
金井 弘司 木下 裕之 木村 聡 熊谷 敬一 栗林 郁夫 毛島 洋介 甲田 有嘉子 小沼 高啓 小林 俊裕  
小林 和歌子 小松 間兵衛 佐々木 宏幸 佐藤 純一 佐藤 新一 佐藤 常芳 佐藤 正道 七里 貞雄 下田 祐子  
白石 恒夫 清野 ちあき 副島 尚子 高頭 靖 高橋 明 滝澤 哲也 田口 厚宏 竹内 公男 竹内 卓  
太刀川 潤 田中 一春 田中 隆 寺田 剛 堂前 洋一郎 鳥羽 雅英 外山 久泰 豊田 武久 内藤 義隆  
長江 孝志 中平 啓子 西崎 浩 西山 純一 根岸 真理 野村 智幸 波多野 正秋 花田 晃治 肥田野 総子  
平賀 武司 深滝 信夫 古川原 誠 古澤 一雄 逸見 和宏 堀川 真理江 堀切 文子 本間 一穂 本間 秀哉  
松岡 琢磨 村上 肇 目崎 秀太 森 登志男 山本 晃司 米川 宏一 渡辺 健寛 匿名希望68名  
〈団体〉エヌ・エス・エス株式会社 上所サッカークラブ グローバルウェーブ・ジャパン株式会社 全農物流株式会社  
新潟大学生活協同組合 日揮触媒化成株式会社新潟事業所 はじめのいっぽ ピアノリトミック教室リエート  
藤木鉄工株式会社 ユキワ精工株式会社 匿名希望7団体

## 新潟大学サポーター倶楽部

■目的 継続して新潟大学を支援するため、倶楽部年会費の全額を「新潟大学基金」に寄附します。  
また、会員様へ本学の情報発信を行い、新潟大学と会員及び地域社会との連携と発展を目指します。

■寄附者名簿 (R3.9~R3.11寄附入金分)※(50音順 敬称略)  
【新規】〈団体〉新潟大学生活協同組合 株式会社菱電社  
【更新】〈個人〉荒田 学 澁谷 裕之 高橋 姿 二宮 登 根津 英美 吉田 順子  
〈団体〉エールホームクリニック JA共済連新潟 JA全農にいがた JA新潟厚生連  
JA新潟中央会 JAバンク新潟県信連 セコム上信越株式会社 株式会社大光銀行  
ナミックス株式会社 新潟交通株式会社 新潟ダイヤモンド電子株式会社 株式会社マルタケ  
有限会社ヤスタヨーグルト

最新の会員名簿は、右記のURLからご覧いただけます。 <https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/supporters/>

## 新潟大学古本募金

■目的 皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただくと、その査定額が新潟大学に寄附されます。  
寄附金は学生の修学支援をはじめとした事業に役立てられます。

■寄附者 (R3.9~R3.11寄附入金分) 〈個人〉16名 〈団体〉7団体

## 遺贈によるご寄附

■遺贈とは 遺言により、ご自分の築き上げられた財産を特定の方々に寄附することを遺贈といいます。この方法で所有しておられる資産の一部を、新潟大学に遺贈したいとお考えの方のため、高度な専門性と豊富な経験を有する銀行と提携し、その手続きの便宜を図るものです。遺贈による寄附のご利用を希望される場合やご不明な点がある場合は、下記お問合せ先へお問い合わせください。

あたたかいご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。  
「興味がある」「詳しく知りたい」「寄附したい」とお考えの皆様へ

詳しい資料をお送りいたしますので、お問合せ先までご連絡願います。新潟大学ホームページでも詳細をご覧いただけます。



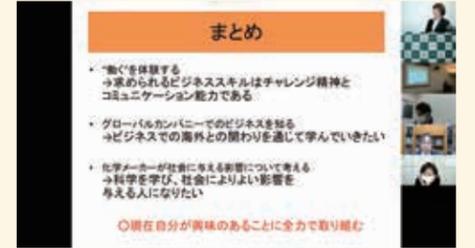
お問合せ先 新潟大学サポーター連携推進室 TEL 025-262-5651・6010・6356 E-mail kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp  
HP <https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/>

# — 学生の輝く未来を共に創る — 基金関係のお知らせ

地域の中核を担い国際社会で活躍する人材を輩出するため、  
「学生の修学支援」「国際交流」「教育施設整備」の推進を目指しています。

## 「令和3年度新潟大学サポーター倶楽部 報告会・情報交換会」を開催しました

本学は、「令和3年度新潟大学サポーター倶楽部報告会・情報交換会」を、12月1日(水)にオンラインで開催し、企業会員、学生、大学教職員の約100人が参加しました。毎年、サポーター倶楽部会員の皆さまに、支援を受けた学生からの謝意や特色ある活動を展開する学生の活動報告などをお伝えする場として、「新潟大学サポーター倶楽部報告会・情報交換会」を開催しています。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、オンラインで実施しました。報告会では、牛木学長から倶楽部の概要や新型コロナウイルスに関する本学の対応等について説明があった後、学生4名からそれぞれの学びや将来への抱負について、ご支援へのお礼の気持ちを込めて報告がありました。続いたの情報交換会では、Zoomのブレイクアウトルームを利用し、倶楽部会員と学生が情報交換を行いました。学生がファシリテーターとなり、新型コロナウイルス禍における学生生活や就職活動などについて活発な意見が交わされ、多くの参加者からとても有意義な時間だったとの声が寄せられました。本学では、今後もサポーター倶楽部の輪を広げ、倶楽部の創設目的である「学生の修学支援」「国際交流」「教育施設整備」の推進への支援と、会員への情報発信による本学と会員及び地域社会の更なる連携と発展をめざしてまいります。



学生による活動発表の様子



報告会会場の様子

## 新潟大学院生会の研究力向上に向けた活動 — 大学院生の研究を応援する基金の創設

新潟大学院生会は、大学院生の研究力向上や博士課程への進学を促進するための情報発信を積極的に進めています。活動の一環として令和3年12月12日(日)に「院生会研究発表会」をオンライン開催し、大学院生や大学院進学を考える学部生などが参加しました。参加した大学院生は異なる研究分野のポスター発表を通じて、自身の研究の進め方にヒントを見出し、学部生は先輩の日常やモチベーションなどに触れ、進学意欲を高めていました。今後は、本学を卒業した研究・開発者や、企業の方々との情報交換を進めるとともに、他大学の大学院生との交流を通じて、モチベーションアップや発表・研究手法の向上につなげていきたいと意気込んでいます。新潟大学では、そんな大学院生たちを支援するため、令和4年1月から「研究等支援基金」を創設しました。産学官の広い分野でイノベーションを起こすことができ、またグローバルに活躍ができる博士人材を育成する取組みを応援しています。



オンラインビデオ通話スペースを活用した院生会研究発表会の様子



和気藹々と活動する院生会スタッフ

新潟大学研究等支援基金WEBサイトはこちら



新潟大学  
古本募金

読み終えた本が募金となって  
学生の修学支援などに役立てられます

「新潟大学に寄附したい」とお伝えください

お申込み

新潟大学古本募金

0120-29-7000 (受付) 9~18時

(運営) 睡眠野株式会社 〒358-0053 埼玉県入間市仏子 916 埼玉県公安委員会 古物商許可証 第431100028608号

企画 新潟大学サポーター連携推進室  
TEL. 025-262-5651, 6010

真の学びを学ぶ  
新潟大学  
NIIGATA UNIVERSITY

# Campus Information

地域に密着しながら様々な活動が続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。

## 「第1回日本の酒シンポジウム 酒縁～ワイン・焼酎・日本酒～日本の酒の未来へ」を開催しました

本学日本酒学センター、山梨大学大学院総合研究部附属ワイン科学研究センター、鹿児島大学農学部附属焼酎・発酵学教育研究センターは、11月25日、本学中央図書館ライブラリーホールにて、「第1回日本の酒シンポジウム 酒縁～ワイン・焼酎・日本酒～日本の酒の未来へ(第4回日本酒学シンポジウム、第17回鹿児島大学焼酎学シンポジウム)」をハイブリッド形式(現地開催およびオンライン)で合同開催しました。3大学のセンターは、日本の酒(日本産酒類)に係わる教育研究活動の推進を目指し、2021年9月、連携協定を締結。今回のシンポジウムは、本協定に基づくキックオフシンポジウムとなります。牛木辰男新潟大学長の挨拶の後、第一部では、奥田徹山梨大学ワイン科学研究センター長、玉置尚徳鹿児島大学焼酎・発酵学教育研究センター長、鈴木一史新潟大学日本酒学センター長から、各センターの歴史や取組について紹介がありました。第二部では「日本の酒 製造法の概要」と題して日本酒、ワイン、焼酎の製造方法について、第三部では「日本の酒 最先端」として各センターで取り組んでいる最新の研究等について、各センター教員よりそれぞれ紹介がありました。シンポジウムの最後には、金桶光起新潟県醸造試験場長、大平俊治新潟県酒造組合会長から、「今後の期待」と題して、3センター連携協定締結による日本の酒(日本産酒類)の展望についてお言葉をいただきました。当日は、現地参加者とオンライン参加者を合わせて約330名の参加がありました。



## 「コシヒカリ新潟大学NU1号」を附属学校園の学校給食で提供しました



本学は、新潟市と長岡市にある附属学校園(幼稚園、新潟小学校、新潟中学校、長岡小学校、長岡中学校、特別支援学校)の学校給食にて、農学部三ツ井敏明教授らが開発し本年度収穫された「コシヒカリ新潟大学 NU1号」を11月に提供しました。初めて食べた附属新潟小学校の児童からは、「もちもちと弾力があって」、「お魚と合ってとてもおいしかった」等の感想があり、研究についても「大学でお米の研究をしていると聞いてすごいと思った」、「私も研究してみたい」といった声が聞かれました。この取組は食育の一環として行われ、給食当日には当番の児童らが NU1号について説明し、その特徴や開発背景等を学びながら給食を食べる様子が伺えました。「新潟県民なのでお米が大好き」と話す児童は、NU1号の『暑さに強い』という特徴に関連して、「地球温暖化の状況下においても育てられるのはすごい」、「おいしくて暑さに強い品種であればたくさん生産してほしい」等、地球温暖化の状況と照らし合わせた新潟のお米作りへの思いを熱く語りました。

## 医歯学総合病院運営コワーキングスペース「I-DeA」オープニングセレモニーを開催しました

本学医歯学総合病院が運営する法人向け会員制コワーキングスペース「Innovation Design Atelier (I-DeA)」がこのたびオープンし、12月6日にオープニングセレモニーを行いました。I-DeAは、産学官それぞれの人と情報をつなげる「アクセスポイント」として新たな価値を創造するオープンイノベーションの場。I-DeAを通じて生まれた共創プロジェクトは、隣接する本学医歯学総合病院を実証実験の場として活用することで、実用化に向けたプロトタイプを行い、社会への実装を目指します。セレモニーの第一部では、新潟県、新潟市及び本学の連携協定締結企業・大学を来賓にお迎えし、温かいご祝辞とあわせて I-DeAに寄せる期待の声をいただきました。また、本学医歯学総合病院の富田善彦病院長から、I-DeAのコンセプト・運営方針、設置の背景、スペース・設備や提供予定のプログラムについて説明・紹介がありました。第二部では、医療用ロボットスーツ「HAL」の医師主導治験を実施された独立行政法人国立病院機構新潟病院・病院長の中島孝先生から「メディカル・ヘルスケア分野のイノベーション促進の秘訣とコッー医療機器(HAL及び MicroVent V3)、コスメティクス、福祉機器、医療機器プログラムの成功事例の紹介」と題した基調講演がありました。参加者は、中島先生の HAL 開発の経緯や医療機器開発における規制のポイント等のお話に非常に関心を持ちながら聴き入っていました。



会員登録に関するお問い合わせ等は  
こちら



新潟大学  
季刊広報誌



R I K K A 2022.WINTER No. 39

発行/令和4年2月  
編集/新潟大学広報センター  
(新潟市西区五十嵐2の町8050番地)  
電話/025-262-7000

Home Page <https://www.niigata-u.ac.jp/>  
E-mail [rikka@adm.niigata-u.ac.jp](mailto:rikka@adm.niigata-u.ac.jp)  
新潟大学 Facebook  
<https://www.facebook.com/niigata.univ>